

大垣市金生山化石館

## 化石館だより

## コラム

## 謎の巨大化石「シカマイア」(その2)

金生山で発見され赤坂の地名をもつ二枚貝、シカマイア・アカサカエンスは、発見当初、動物か植物かさえも分からず、所属不明の化石として報告されました。二枚貝であることが分かった現在でも、その形体や生活の仕方については良く分からないことが多く、依然謎の化石であることに変わりはありません。謎めいたその形体については、多くの学者によって様々な復元が試みられてきました。

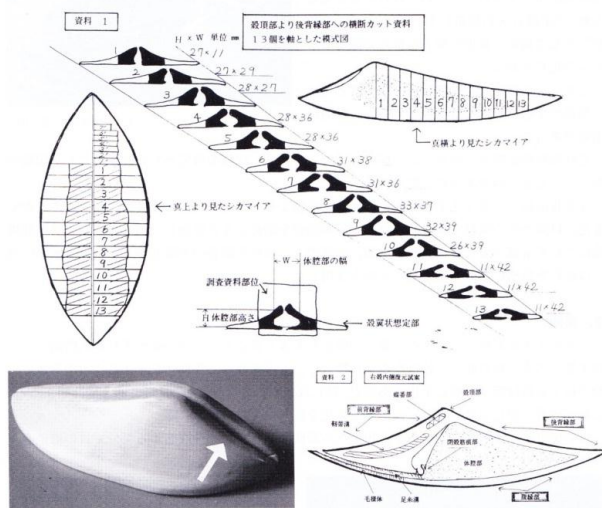


図4 形態復元模型 (1×0.3) 矢印=前背縁部

安藤賢三 (1994) は、1 cm 間隔で切断した連続する断面を用い、これを繋ぎ合せていくことによって、その全体像を明らかにしようとして試みています。また豊橋市自然史博物館では、松岡敬二ほか (2005) によって、保存の良い複数の標本からスケッチで全体像をイメージし、粘土を用いて成形した模型と化石標本を照合することで復元模型を製作しています。

金生山化石館でも、これらの報告事例を参考に、いくつかの部分標本をもとにして復元を試みてい

ます。シカマイアの外形は、横幅に対して長さが約3倍とも言われますが、金生山のシカマイアは、根尾で産出するものより丸みを帯びていることから約2倍と考えて復元しています。金生山化石館では、大平省二氏寄贈の巨大な標本を中心に、シカマイアの展示をしています。大平氏寄贈の標本は、シカマイアの中央部分を横に切断するもので、右写真左上に示す模型の赤色に塗られた部分です。右殻に相当する部分が、中央から端まで完全につながっており、幅は40 cmあります。従って左右合せると殻幅が80 cmあったこととなります。長さは幅の3倍とすれば、240 cmとなりますし、2倍と考えても160 cmとなります。現生で最大の二枚貝はオオシャコガ



いで、130cmを超えるものが見つまっているようです。しかし、金生山のシカマイアは、これを大きく上回りますので、「**史上最大の二枚貝**」と言っても良いと思います。

さて、シカマイアは、アラトコンカ科 (Alatoconchidae) に属しますが、絶滅して今は存在しません。現生では、翼形類 (Pteriomorphia) に位置づくようですが、この仲間にはイガイ、フネガイ、カキ、イタヤガイなどがあります。これらの仲間は、その多くが足糸という繊維状のもので、砂や岩に体を固着させています。シカマイアも足糸によって体を固着させていたようです。シカマイアが密集して層状に分布している様子からは、礁を形成していたとも考えられます。



## お知らせ



### <化石講演会> **金生山の化石が語る古生代末の世界**

日 時： 2月11日 (火・祝) 午後1時30分より

場 所： 大垣市 スイトピアセンター学習館 2F スイトピアホール (入場無料)

講 師： 京都大学教授 大野照文 先生

シカマイア・スカチネラ・巨大化石・大量絶滅をキーワードに、化石生物の復元を交えて、金生山の化石から分かる古生代末の世界について解説していただきます。

### <入会案内> **金生山化石研究会**

意欲と、興味関心のある方なら専門知識が無くてもかまいません。都合がつくときだけの参加も可能です。化石館が行う講座や、研究会が行う学習会・見学会などで一緒に学びましょう。

#### 活 動

- ・金生山の化石、地質、地史等に関する研究調査、及び市民への普及
- ・化石や地質の学習会、見学会、採集会
- ・金生山化石館の活動支援

#### 例 会

毎月第1土曜日 午後1時30分から 大垣市図書館3F会議室にて

#### 会 費

年間2000円

#### 問 合 せ

金生山化石館へ ☎ (0584) 71-0950

問い合わせ： 大垣市金生山化石館 電話 (0584) 71-0950 (ファックスも同じ)

Email [kasekikan@vanilla.ocn.ne.jp](mailto:kasekikan@vanilla.ocn.ne.jp)